

会議録

会議の名称	男女平等参画推進委員会 平成21年度 第11回
開催日時	平成21年9月10日（木曜日） 午後7時から9時まで
開催場所	イングビル第4会議室
出席者	委員：池田委員、青木委員、虎頭委員、大野委員、寺内委員、富田委員、高木委員、角田委員、中村委員、北條委員、渡辺委員 欠席：西山委員 事務局：飯島課長、藤巻係長、貫井主任
議題	1 第10回西東京市男女平等参画推進委員会会議録の確認について 2 「男女平等参画推進計画策定に伴う研修会」の報告について 3 平成20年度男女平等参画推進計画各課実績評価について 4 その他
会議資料の名称	1 第10回西東京市男女平等参画推進委員会会議録 2 男女平等参画推進委員会名簿
記録方法	全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>開会</p> <p>委員長： 議題に入る前に、新しい委員の方の紹介、委嘱をお願いします。</p> <p>課長： 公務都合上欠席の市長部長に代わり、生活文化課長が委嘱を行う。関係団体代表者で委嘱していた委員2名の後任として、ひばりが丘中学校長大野雅生氏、都労働情報センター長寺内親弘氏を委嘱および紹介する。</p> <p><u>1 第10回西東京市男女平等参画推進委員会会議録の確認について</u> 委員長： 第10回会議録は承認された。</p> <p><u>2 「男女平等参画推進計画策定に伴う研修会」の報告について</u> 委員長： 研修会について、報告をお願いします。</p> <p>事務局： 平成21年7月14日、市の管理職員対象とし、計画の勉強会と合わせ各委員から意見要</p>	

望を、2時間弱に渡り行った。有効かつ一定の成果を得られたと考える。

委員：
一方的にならずにできた。

委員：
用意していたことは、全て回答を得られた。

委員：
参加人数も多く意欲的発言がよかった。

委員：
質疑応答の時間が限られ、受けられなかったのが今後の課題。

3 平成20年度男女平等参画推進計画各課実績評価について

委員長：
実績評価について、意見があれば発言願いたい。

委員：
以前より改善されている。

委員長：
各領域で、平成20年度評価について調整願いたい。既に済んでいる領域は「5カ年の総括評価」および次からの評価をどのようにしたら良いか、話し合っていたきたい。
(各領域調整...省略)

委員長：
各領域の平成20年度実績評価の作業は終了。続いて他の領域との意見交換を行う。先に進んでいるグループについては「5カ年の総括評価」を各領域で報告願いたい。また、次回までに各領域で持ち帰りまとめておくよう願いたい。

各委員：
議論される。

委員：
「5カ年総括評価」については、まとめた「各課実績一覧」を元に、数年に渡る評価の中で見えてきた課題および意見を出し合い、「数値的評価」と合わせ、総括的に把握する必要があるのではないか。

委員：
「5カ年の総括評価」の目的として、いかに有効的に大きな効果が得られるかだと思ふ。新計画（西東京市第2次男女平等参画推進計画）の次回評価にどう活かせるか、各課においてもよりよい意識を持ってもらうため、簡単かつ明瞭にする必要がある。

委員：

単年度の「各課実績一覧」をばらし、5カ年の取り組みごとにまとめるのはいかがか。毎年同じ状況になっているかなど進捗状況がわかる。「5カ年総括評価」の目的の視点を何処に置くかが重要。今後各担当課にきちんとやっていただくため、どのような位置付けにするのか。

事務局：

評価に対して事務局が話をする分野ではないが、ひとつあるとすれば、行政として「西東京市男女平等参画推進計画」策定後5年間の各所管課の啓発を目的とし、細かく領域の各施策について、どのような動きをしているか評価を頂くのは、本来、意義があることと考える。

5カ年の成果と総括評価の目的として、各所管課に対して、細かく施策内容ごとの意識啓発的評価にするのか。行政全体に対して、広い領域ごとの総評価にするのか。对各所管課意識啓発的評価は、途中組織改正があった中、各5年間の一つ一つのデータおよび評価の分析が必要、またABC評価の動きがないとの理由で、一度ランクを下げている経緯もあり、複雑かつ各課へ伝わりにくい。委員の発言のように、行政全体に対して、計画全体および領域ごとの総評価のコメントをもらった方が、私個人の考えとしてだが、5年目の成果と評価として伝わる。

委員：

課長の意見について大賛成だが、何年も同じ答えや、特になしとのコメントをする課が見られる。一つの案として、変化が比較できるよう少なくとも任期期間の数年間は並べたい。

委員：

今、総括評価の議論が行政側に向けて進んでいるが、実際には市民も読むことを想定して書く必要もある。

委員：

個別に各担当課についてじっくり見るのもよいが、課長の発言のとおりABC評価について、動きがない理由で、ランクを下げている箇所および経緯がある。しかし一方で40項目に渡る施策からすれば、評価に多少のずれを生じながらやってきたとしても、見方を5年間にすれば、大きな傾向性につての評価が出るはず。委員の個別ごと、各担当課への課題については、A4でまとめる文書の中で、伝えるのが無難ではないか。各領域でまとめ、最終的に揃えるところは揃え市長に提出する方がよい。

委員：

あまり知らないまま聞くが、この20年度の実績の執行状況は、5年間継続されたものとするれば、毎年、前年度から引き継いだ評価項目が、20年度実績に繋がる結果になるはず。評価を受ける立場を考えると、5年間を振り返って、男女平等参画推進計画全体として評価をもらったほうが効果的ではないか。

委員：

本日始めてだが、毎年の評価は今までと同じでよいが、5年間の総括評価となれば同じ事をして意味がない。もう少し大きな立場で評価する必要がある。例えば今後、力を入れるべき課題を含めた方向性など、各担当課に対してではなく、領域ごとに評価した方がよい。

委員長：

貴重なご意見である。

「5ヵ年総括評価」として、確かに20年度の評価が過去の積み重なりで最後の評価だとすれば、20年度の事業成果、評価をどのようにするか。コメントを書くとき、過去の評価、流れを参考にするのは大いに構わないが、今後市が力を入れるべき具体的な案、要望などを盛り込み、毎年、各グループで行ってきた実績より少し丁寧に評価をし「5ヵ年総括評価」にするという意見だがいかがか。

事務局：

参考までに申し上げます。行政側のものの作り方として、当然大きな政策があり、その下に大括りの施策と呼ばれる分類があり、その下に個別の事業がある。だとすると、男女平等参画推進計画が大きな政策、その施策と思われる領域がある。委員、委員のご意見のように領域で評価いただくのが、市として有効かと思う。各担当課については2次計画で新規事業もあり、落ち着いたところでネットワークを構築することもできる。

各委員：

議論される。

委員長：

では各領域で、今までの4年分の実績評価を読み返し、20年度の課題等を出しながら、5年間の特徴的な流れを拾い、「5ヵ年総括評価」1本化にし、A4用紙1枚程度に「達成している部分」「欠けている部分」「これから勸めて欲しい部分」などまとめることとする。

事務局：

過去のデータが必要であれば、この年次ごとの最後の領域の結果を送りなおすがいかがか。

委員長：

新しい委員意外は手元にあるデータを元に進めていただく。
欲しいグループは事務局に個別に連絡すること。

事務局：

各課20年度実績の完成版は9月24日までに送付する。

4 その他

委員長：

では、次回委員会の日程、内容について決める。

事務局：

今年度予定している委員会6回中、研修会含め4回開催している。今後議論していただく大きな議題として、1.新しい条例の考え方「男女平等条例策定」2.配偶者暴力の関係のあり方「DV基本方針策定」3.次回の評価の仕組みの議論「西東京市第2次男女平等推進計画の評価方法」など重いテーマが続く。

委員長：

10月13日会議で20年度評価総仕上げ、各領域の相互意見交換会を行う。「5ヵ年総括評価」について各領域考えてきて欲しい。11月11日会議で「5ヵ年総括評価」についてとする。

次回委員会 平成21年10月13日（火曜日）午後7時～9時 イングビル第4会議室
次次回委員会平成21年11月11日（水曜日）午後7時～9時 田無庁舎1階102会議室